

大日本コンサル計
大新

700人体制売上175億目指す

研究開発投資を加速

大日本コンサルタントは、2020年6月期から3年間を対象とする第12次中期経営計画をまとめた。企業価値の源泉となる品質確保と社会ニーズを的確に取り込む事業領域の拡大、すべての事業の源泉としての人材育成を重点課題に挙げ、「人」「仕事」「社会」を軸とするESG（環境・社会・企業統治）経営を推進し、「信頼のもと、社会から必要とされる企業グループ」として、成長し続け、競争に勝つ、活力に満ちた企業の実現を目指す。計画最終の22年6月期での数値目標は連



売上高175億円、営業利

益11億円と設定した。8月30日に開いた19年6月期決算説明会で新井伸博社長は「この3年間は確実に力を蓄える期間として、社会から信頼をいま以上に高める品質確保、事業領域拡大、人材育成の投資を厚くしていくシナリオを選択した。その一方で新しい社会課題に果敢に挑戦し、さらに将来に向けて成長スピードを上げていきたい」と語った。写真。基本戦略として、技術の成長ではICTを中心に、主力事業の強化や領域拡大のための研究開発投資を毎年15%アップさせるなど加速していく。特に官民連携業務などマ

第11次中計最終の19年6月期の連結業績は、受注高が前期比40・3%増の168億3300万円、売上高が6・3%増の157億2700万円、営業利益は40・3%増の12億3500万円といずれも過去最高を更新した。第12次中計初年度の20年6月期の業績見通しでは受注高が6・7%減の157億円、売上高は2・9%増の161億8000万円、営業利益は23・1%減の9億5000万円を見込んでいる。

建設通信新聞 2019年9月2日掲載